

茅ヶ崎セントラルクリニック 守谷 広美(看護部/主任)

- 功 績 クリニック理念である「患者さんの生き活きとした人生を支援する」に基づき、入院していた患者さんが退院後も日常生活に戻れるよう各所へ働きかけた功績
- 推 薦 者 細川 康子
- 推 薦 理 由 認知機能とADLが低下したことにより転院し、入院透析することが妥当であるとされていた患者さんを、包括支援センターの担当ケアマネージャーへ本人のADLが回復するまでは施設へショートステイをして外来透析を継続するという提案を行い、ショートステイ先を探すに至ったことは理事長賞に値するものだと思います。

内 容

今回のケースは自宅から当クリニックへ外来透析のため通院している70歳男性の患者さんです。認知度はやや低下傾向にあるものの介護区分は「要支援」で、介護施設への入居も希望されていませんでした。

心筋梗塞の疑いにて入院後徐々に認知機能低下。ADLも低下し、自力での歩行は困難だったため退院できずにいました。また自宅も2階で階段昇降による転倒・転落のリスクがあるため、外来透析継続は困難であると担当ケアマネージャーより連絡があり、区分変更をして、介護施設への入所を検討しているとのことでした。

守谷主任は当初本人が介護施設への入所を希望されていなかったため、患者さんの希望に添った方法としてADLが回復するまでは施設へショートステイして外来通院透析をしてみてもどうかと提案しました。

この提案により包括支援センターのケアマネージャーはショートステイ先を探す選択をしてくれました。常に患者さんの立場にたち、ご本人が何を望まれているかをくみ取り、クリニックにとっても外来通院という道を残すことで患者さん減少を食い止めることに貢献しました。